

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4793400013		
法人名	医療法人 和の会		
事業所名	与那原在宅ケアセンター グループホーム かなち		
所在地	沖縄県与那原町字与那原1792番地の1		
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果市町村受理日	平成22年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.goj.oho-oki.nawa.jp/kai.gosi.p/inforat.onPublic.do?J_CD=4793400013&amp;S_CD=320">http://www.kai.goj.oho-oki.nawa.jp/kai.gosi.p/inforat.onPublic.do?J_CD=4793400013&amp;S_CD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市楚辺2-25-7 セントラルハイム南西303号室		
訪問調査日	平成22年10月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当ホームは近くに小学校・公園・公民館、裏手には木々が生い茂り緑豊かな環境に立地している。木々が生い茂り緑豊かな環境に立地している。本体医療法人が近くにあり特に医療連携が充実している。建物2階に位置したホーム内は利用者の安心・安全に配慮した造りの上、診療所、訪問看護ステーション等が同施設内にあり、利用者の急な体調変化への対応や指示又は、利用者への機能回復へのアドバイスなど十分な協力が図れる。管理者・センター課長が一貫した利用者本位のケアを職員と共に実施し、利用者のみならず家族へも繋げ家族の絆を深めている。在宅ケアセンターとの連携により、地域住民に対し認知症ケアの啓蒙活動を行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所は4階建ての2階に位置する。静かで落ち着いた住宅街にあり、地域の方々と挨拶を交わしたり、野菜のおすそ分けを貰う等の交流がある。同建物内に、診療所や訪問看護ステーションがあり、利用者の日々の健康管理、状態の変化等、医療連携が図られている。看取りケアに際し、家族を含め関係職員で会議を重ね、意思の確認、情報の共有、職員不安の軽減を図りながら対応が行われている。朝の新聞の読み聞かせは、職員が分かりやすい言葉で説明を加えながら行い、利用者は熱心に聞いている。職員研修が充実し、認知症への理解を深めケアに役立っている。認知症サポーター養成講座を積極的に実施し、認知症専門施設として認知症高齢者の理解を広めていくことで地域に貢献している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で支えあいながら地域に開かれたグループホームを目指し利用者の方が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう、出来る事を見つけて援助している。	地域との関わりを重視し、利用者が穏やかに暮らしていける事を専門的ケアを通して支えていくことを大切に、事業所独自の理念となっている。毎朝申し送り時に理念を唱和し共有している。職員は、十分に理解し、毎日のケアの中に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへの差し入れ、公民館への行事参加、町内保育園児との交流。家族の協力で外出支援にも努めている。	自治会に加入し、公民館で開催する敬老会に参加し交流している。近くの保育園児たちと、敬老会、クリスマス会時に触れ合う機会がある。認知症の専門施設として、認知症高齢者を正しく理解してもらえるよう、年に6回勉強会を開催し地域の方も参加している。管理者等が講師となり、地域の中学校、民生委員、町職員へ認知症サポーター養成講座を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回専門性を活かして介護勉強会を開いている。地域、家族、地域を支える公的職員にも案内を掛け気軽に質問出来る雰囲気で開催している。認知症サポーター講座を行い理解を求め民生委員からの介護不安軽減の相談にも乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。運営状況、活動・行事・地域交流及び日々の暮らしぶり、健康状態、家族との連携の在り方、事故、公表、評価、施設の取り組みについて報告し地域の方々の意見を参考にしている。	今年度、奇数月に6回開催されている。毎回、町職員、区長、民生委員、家族、利用者等の参加がある、事業所は利用者の状況や活動、事故、職員研修等報告している。会議の中で民生委員から法人主催の「在宅で楽しくできる介護勉強会」への課題の提起がある等意見交換が行われている。昨年度の外部評価について報告をしているが、委員からの意見等は特にない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの行事・勉強会・食事会などに案内を駆け行き来する機会を設け相互で情報を共有しサービスの質の向上に努めている。	法人主催の勉強会に、町職員も参加し、コミュニケーション技術、移乗の方法、権利擁護等について学び、認知症高齢者のケアのあり方についてお互いに理解を深めていく努力をしている。町内で介護で困っている方へ、町職員が勉強会参加を促す等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員や家族に対しても、常日頃からあってはならない事を話している。職員・家族の心ない対応や言葉の虐待に気をつけるよう十分に注意を促している。	身体拘束排除の方針や、身体拘束対策委員会の設置、「身体拘束をしないケア」の実践に努めている。マニュアルも整備し、追加や変更等の見直しも行われている。管理者は、言葉による拘束もないよう常に職員に注意し、職員も利用者の動きに気を配り、「利用者ケアが最優先」を意識し、拘束をしないで事故のない安全な暮らしの援助に努めている。入口は、タッチセンサーが取り付けられており、外出したい様子の利用者がある場合は、さりげなく声かけをしながら、一緒に散歩に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自宅へ帰宅、外出、入浴、脱衣中にはケガ、傷はないか確認するようにしている。当センターにおいて虐待、身体拘束委員会を持ちその人らしさを活かせる方法を話し合いケアに工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族が後見人制度について聞いてきたら相談員が説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの内容や重要事項、契約書の内容等分かり易く説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に意見を言えるような雰囲気作りに努め、家族からは面会時に意見・要望・苦情を言ってもらう事が多く改善が必要な課題は検討し対応している。	運営推進会議へ、同法人の小規模多機能型介護事業所の利用者、家族が輪番制で参加し意見が出されている。家族の面会時は利用者の様子を伝えながら、要望等がないかを聞くように努めている。利用者アンケートを実施し、職員の言葉かけに対する意見が出され、ミーティングで改善に向けて話し合いを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター課長に職員職員の考え方を伝えケアの在り方をアドバイスを受けたり法人の運営の在り方について情報を共有し職員へ浸透するように努めている。	毎月1回ミーティングが行われ、職員から、「調理時に利用者へ背を向けている為、利用者の状況が把握できない」という意見があり、検討会議を重ね、流し台の前の壁に鏡面ステンレスを取り付け問題解決が図られている。職員のストレス解消のために「つぶやきノート」が活用されている。退職する職員がいる場合は、おやつ時間を利用し利用者へきちんと説明をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター課長が年2回面談し個々の仕事ぶりの評価や疑問や悩み、意見など聞く機会を設けている。管理者は随時職員の声を柔軟に聞く環境を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成にはセンター課長が積極的に関わり、研修会への適材者を管理者と勤務調整し参加させている。多くの職員が受講出来るよう配慮されており、研修報告書も全職員が閲覧出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し情報交換している。隣接する南城市のグループホームとケアレベルの質について意見交換し、日々の支援にいかしている。		

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後数日は不安で不穏になる事もあるが利用者に配慮しながら言葉掛を密にし寄り添ったケアを心掛け信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学してもらい、相談受付担当の管理者から施設概要の説明、職員の勤務体制、健康上で不安な事や疑問点など相談しやすい雰囲気で行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム見学時に、管理者または相談員が対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を活かし、食事作りの下ごしらえ等を手伝ってもらい時には職員が利用者から教えてもらいながら利用者職員がお互いに支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族を交えホームの中で過ごせる環境を作り試食会なども設け家族と一緒に過ごせる時間を共有させ、本人を支えていける関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来やすい環境作りを心掛けプライバシーの守られた相談室を開放するなどの工夫に取り組んでいる。家族や馴染みの友達に手紙やはがきなどを書く支援をし、途切れないようにしている。	利用者が従兄に会いに行ったり、馴染みの美容室の利用を家族と連携し支援している。。県外に住む利用者の親せきから果物が送られてきた時は、果物を食べる様子の写真とコメントを返信したり、年賀状の送付等、関係の継続支援に努めている。馴染みのシスターが月に1回来訪し、居室でお祈りをし、一緒に讃美歌を歌う利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	軽体操やおやつ作り、ゲーム、創作など全員で参加出来る場を多くし、利用者同士の会話も増えるように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や老健へ移動した利用者へは、職員が面会に行き、声掛けしたり季節の便りを出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みのある家具の持ち込みや利用者それぞれの要望に基づいて配置が出来るようにしている。更衣や入浴の際もシャンプーや石鹸なども希望の物を使用して頂くようにするなどさまざまな希望や意向を最大限尊重するよう心掛けている	利用者にどのような場合でも1つ1つ説明をし、意向を確認しながら支援している。利用者の好みの音楽を流したり、スペイン語しか話せない利用者にラジオのスペイン語ニュースを聞いてもらい、職員は辞書を活用して内容を把握し共通理解を得ながらコミュニケーションを図っている。自分の思いを伝える事の出来る利用者が多いが、困難な利用者の場合は、表情や仕草から思いを読み取り、ケアに結びつけたり、家族と話し合いを持ち把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時や本人との会話の中で生活歴や暮らし方を把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身状況を踏まえ安心して日常生活を送る事が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を把握し作成され利用者の状態や家族の要望が反映出来るよう職員全員でミーティングや意見交換を行っている。	3月からシステム導入により、アセスメント、施設サービス計画書、グループホーム介護計画書、モニタリング等の一連の流れが整備されている。ケア会議が利用者や家族も参加し月に1回開催され、利用者や家族の意向を計画に反映させるよう話し合っている。個々のケアプランの内容を職員一人ひとりが把握し個別ケアに活かしているが、モニタリングは、3か月に1回となっている。	毎月のモニタリングを通して、利用者の意向や状況を把握し、現状に即した介護計画を立案し、ケアに活かしていくことに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過に個別の記録を記録し、日々の気づきは申し送りやケアノートで職員に浸透するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や家族に依頼し外泊を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実習生や、職場体験の学生、定期的なボランティアを受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の、かかりつけ医、受診時には情報提供書(利用者の状態を管理者や訪問看護師が記入)を届け受診後の診療情報を担当医から受け取り支援に活かしている。	利用者の希望するかかりつけ医を家族同行を基本受診とし、情報提供書を作成し支援している。馴染みの皮膚科、眼科等の受診や、歯科の訪問診療を受けている利用者もいる。受診後の医療機関からの診療情報は、家族と一緒に開封し情報を共有している。入院の際は、協力病院の担当者様と様式を調整した共通のサマリーを作成し、それに基づき情報の交換を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し訪問看護と協力し毎日1回利用者の健康状態の把握・管理をしている。緊急時にはオンコール体制で対応し、職員は看護師より指示を仰ぐなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族対応となるので職員が常に病院へ様子を伺いに行く。家族から様子を聞いたり医師や看護師から利用者の状態を確認し退院時には必要なケアの仕方について把握しスムーズに戻って来れるような体制を整え工夫している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した方に対し常に本人の意向や家族、職員、主治医、看護師と話し合っ最後までその人らしさを大切にすることを方針に盛り込むようになっている。	重度化した場合の指針と、看取り指針が整備されており、入所時から指針に沿って家族との話し合いを持ち、同意を得ている。状態に応じて変更も可能であることも説明されている。今回看取りケアにあたり、医師、訪問看護等関係スタッフ、家族との話し合いを重ね、援助が行われている。経過の中に、他利用者も関わりをもつ等、ホーム全体で看取りケアが実施されている。不安な職員へは医師や訪問看護職員が連携して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命救急講習を受講しAEDの操作訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	区の公民館や児童館に災害時協力を仰いでいる。	消防訓練計画に基づき、消防署の指導の下、地域の住民も参加し年2回(昼・夜間想定)避難訓練が実施されている。災害時の対応についての勉強会も年に1回実施されている。スプリンクラーや緊急通報装置は開所時から整備され、業者による保守点検整備、職員によるコンセンの点検も月1回必ず実施される等火災予防に対する意識の高さが伺える。災害に対する備品・備蓄等も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を維持する事を徹底し言葉掛けや対応に気を遣い特に個人情報の取り扱いには十分注意を払っている。	職員は、新人、ベテランを問わず、尊厳を重視した丁寧な言葉かけや対応がみられる。トイレ誘導時も他の人に気づかれることのないようさりげなく対応している。失敗した場合は、トイレにシャワーが備えられており、素早く対応ができるようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに分かるように説明し本人の自己決定に基づいた支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの心身の状況に基づいた支援を行い入浴や食事なども時間をずらして対応するなどの工夫もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、本人の希望される服を選び、理美容は本人の望む店に家族対応の下行っている。有償ボランティアの美容師によるホームで個性を尊重してもらったカットをし本人も満足している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	系列病院の管理栄養士が作成した献立表に基づいた食事を作っている。本人の疾患、嗜好に合わせたメニューを考慮し別のもを出しながら対応している。片付けや食器洗いは利用者の方と一緒にやっている。	病院の管理栄養士が作成した献立表を参考に、調理は事業所内の台所で作られている。食材を切ったり、食器洗い等、利用者も力を発揮している。食材の買い出しに、スーパーへ利用者も一緒に行くこともある。近所からの差し入れの野菜や、家族から送られてきた果物も食卓に並ぶこともある。車いすの利用者は椅子に移乗して各テーブルを職員と一緒に囲み、会話を交わしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列病院の管理栄養士の助言や訪問看護師のアドバイス等を受け個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施している。口腔状態によっては訪問看護師の支持を仰ぐ。家族の依頼により訪問歯科を利用している利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時及び随時にトイレ誘導を行い個々の排泄リズムを把握し失禁を出来る限り減らすように努め、失禁しても下半身浴をして清潔にし不快感を与えないよう工夫する。感染予防の為陰部洗浄をおこなっている。	パーソナルマネジメントシートを利用し、排せつのパターンが把握され、時間前誘導をすることにより失敗が少なくなっている。オムツ使用者も夜間一人のみで、排せつの自立支援が積極的に行われている。トイレ誘導や失敗の時もさりげなく素早く対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は利用者に対して1時間に100mlの水分補給を徹底している。利用者によっては定期受診時に服薬処方コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、本人の健康状態や希望、外出の都合などでずらす事もある。冬は浴槽にも入って頂き、夏の暑い時はシャワー浴を中心に実施している。	入浴は基本的には週3回であるが、希望すれば毎日でも可能である。シャワーのみでなく、冬場は浴槽も利用している。利用者の好み入浴剤、シャンプー、石けん等を使用している。勤務体制上同性介助がされない場合がある。	尿路感染症予防の為排せつ後の陰部洗浄等の取り組みが行われているが、入浴介助や陰部洗浄等は利用者の羞恥心に配慮した同性介助が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者1人ひとりの心身の状況によって休息を摂ってもらっている。昼寝の時間は決めておらず、本人の希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳のファイルにそれぞれ服薬している薬の内容の説明書を閉じており、変更がある場合にはケアノートで職員に申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯物たたみなど利用者一人ひとりの好きな事や出来る事に積極的に参加してもらっている。気分転換を図るために散歩、センター内他事業所を訪問、屋上で景色を見ながら息抜きをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周りを散歩したり、職員と一緒に個々に買い物に出掛ける機会を作っている。	旧暦の1日、15日は、先祖供養の為の外出を支援している。教会へ出かける利用者もいる。利用者の希望でケーキやコーヒーを飲む為に職員と出かけたり、買い物時に海辺までドライブし、おやつを食べることもある。外出の困難な利用者も屋上や、一坪庭へ降りて気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛ける時、希望される利用者は買い物を楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や要望がある時は、電話をしたりお土産に対して自筆のお礼状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房の温度調節は利用者が快適に過ごせるよう高齢者の肌温度を常にイメージしながら職員がチェックしている。リビングには四季の花を飾ったり装飾品や個々の作品、手工芸に季節感を楽しんでもらっている。	室内は程良い採光で、大型テレビを見ながら、台所の様子も一目で分かるようなソファの配置になっている。職員が育てた蘭の花や、絵や写真等が飾られ、利用者の目を楽しませている。毎朝窓を開けることで部屋の空気の入替えと同時に季節感を感じてもらっている。台所は、利用者が座ったままでも作業が出来る高さで、食卓テーブルや椅子も利用者に合った高さのものが使用されている。利用者の好みの音楽が流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に強要はしていないが、それぞれの場所が決まり、また、居場所に配慮の必要な利用者はソファの場所まで誘導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際、馴染みの物や愛着のある物を持って来るよう願っている。	居室には、備え付けのベッドやタンスの外、利用者が使い慣れた家具(タンス、椅子等)、クッション、食器類、時計等が持ち込まれている。家族の写真や絵、鉢植えの花が飾られている。オムツやパット等は、カゴ等に収納し人目につかないように置く配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建築時にバリアフリーについては十分検討し段差も少なくトイレ浴室も滑りにくいタイルを使用している。手すりは利用者の手の位置に合った手すりを使用している。		